

事後評価報告書(日本-中国研究交流)

1. 研究課題名:

「杭州湾沿岸地帯に分布する年代の異なる水田(30～2,000年の栽培来歴)の土壤有機炭素プールの安定性と土壤炭素の増減に関する研究」

2. 研究代表者名:

2-1. 日本側研究代表者:国立大学法人山形大学農学部 教授 安藤 豊

2-2. 中国側研究代表者:浙江省農業科学院環境・土壤肥料研究所 所長/教授 Jianrong Fu

3. 総合評価:(B)

4. 事後評価結果

(1)研究成果の評価について

30年から2000年にわたり水稲栽培履歴を持ち、世界的にもまれな、中国浙江省杭州湾地帯の年代の異なる水田土壌をサンプルとして採取し、組成や理化学特性などを分析、調査ができたことは成果として認められる。

一方、当初の計画に対していくつかの変更点が見られる。終了報告書記載以外でも、平成23年度計画書に記載があるように、衛星写真が高額で入手困難になり聞き取り調査に切り替えている。止むを得ない事情による変更は理解できるが、日本と中国の研究分担も含め、スタート時点での研究計画が十分でなかった様に思われる。また、本事業の成果となる原著論文が、1報にとどまったのは、残念であった。

(2)交流成果の評価について

日本側と中国側を合わせ、延べ出張日数が約270人・月と数多くの交流を実施することにより、若手研究者の新たな人的ネットワークの構築と相互理解ができたことは評価できる。

また、共同研究によって20年にわたって築いてきた両国の研究代表者の関係を次代に引き継ぐことを研究目的の一つにして研究を進めたことは評価できる。個々の研究を通じて次の世代を担う若手研究者の連携ができたと理解できる。

一方、日本から中国への訪問実績は、14回であるが、中国から日本への訪問実績は、2回のみである。中国から日本への訪問回数を増やすことにより、さらに相互理解が深まったと思われる。

(3)その他(研究体制、成果の発表、成果の展開等)

本研究の成果により、収量と土壤有機物を増加させる栽培技術が提案されている。今後、このような提言を実践していくことができれば学術的のみならず社会的にも意義の高い事業となると思われる。